

株式会社 IMAGICA TV 番組審議委員会議事録

開催日： 2007年11月15日(木) 10:30～12:00
開催場所： 株式会社 IMAGICA TV 内 会議室
出席者：

放送番組審議委員	株式会社 IMAGICA TV
植田 敬三	星 正人 (代表取締役)
石川 俊之	草野 雄次
朝比奈 暁美	野村 憲一
犬養 亜美	林 哲史
小倉 茂	高野 佳彦

(以上、敬称略)

議題：「洋画★シネフィル・イマジカ」、「食&健康バラエティ★フーディーズ TV」および「歌謡ポップスチャンネル」の番組内容、編成内容の審議

配布資料：上記各チャンネル 11月および12月プログラムガイド
各チャンネルメディアプロフィール

審議内容：

- ① 現況と報告 (星代表取締役)
CS 放送業界、CATV 業界の現況、各チャンネルの状況についての説明があった。
- ② 番組審議委員紹介
今回より 3ch 合同審議となったことによる審議委員構成の変更に伴い委員各位の自己紹介がおこなわれた。
- ③ 各チャンネルの概要、活動方針、編成方針の説明 (野村、林)
 - ◆『洋画★シネフィル・イマジカ』
 - ・人気作品やハリウッド系大作にこだわらず、人々の心に刻まれ何度見ても色褪せない、名画と呼ばれる作品群を中心にノーカット、ノーCM で提供。
“シネフィル” = “映画好き” に向けたチャンネル構成
 - ◆『食&健康バラエティ★フーディーズ TV』
 - ・2007/10/1 より「グルメ旅★FoodiesTV」から CH 名称を変更
人間のライフスタイルの中心「衣食住」の「食」にスポットを当て「レシピ」「ドキュメンタリー」「バラエティ」と幅広く扱う → レシピ中心から、視聴の中心である女性のニーズ「美容・健康」などにもスポットを当てた構成に。
 - ◆『歌謡ポップスチャンネル』
 - ・2006/7/1 より、「カラオケチャンネル」から名称変更と編成リニューアルを実施し
団塊の世代をコアターゲットとした、最新の演歌、歌謡曲、懐かしい歌謡曲、フォ

ーク、ロック、民謡を中心とした編成に。

④ ご意見、質疑

●『洋画★シネフィル・イマジカ』について

- ・昔、ビデオもない時代は、年間 50 本見るのが“映画好き”のひとつの目安だった。今は年間 400 本も見る、という方がいて、これも放送や DVD などが充実しているからこそ可能。
- ・映画を集める上で、例えば調達不能な映画、というものもあるのか？
 - マスターが紛失していたり、映画会社の変遷で権利が複雑化している場合など
 - マスターは思わぬところで発見され陽の目を見ることもあり、また、昨今 HD 化の動きもあり古い映画がリマスタリングされ鮮やかに蘇るものもある。

●『食&健康バラエティ★フーディーズ TV』について

- ・「フーディーズ」の新しいロゴマークがかわいくてよい。
- ・スポーツ選手の朝ごはん、などは面白い着眼点だと思う。
- ・「Sweets&Bread」などはいかにも女性的。
- ・スタジオ撮影ではなくその人の家の中で料理、という覗き見的要素も面白い。
- ・外国の料理番組には、日本で作られた料理番組にはない一面があると思う。ジェイミーやマーサなどの適当さ&スピード、反面ロブションのきめ細かさなど。日本の料理番組は見せ方としてある意味手間と時間をかけすぎに思う。専門 ch としての試行錯誤されている中、減らされつつある外国ものを再考してみたい。

●『歌謡ポップスチャンネル』について

- ・24 時間放送の要望はないのか？
 - 現状はない
- ・視聴者分布は 50 代以上が 67%、ということであったが、数年後は 70%超になると思うので、一度シミュレーションした方がよいと思う。
- ・歌謡“遺産”チャンネルのようなコンセプトで考えられては？ 遺産の幅が広がっていけばよいのだがあまりにも年代を絞った編成は、偏りが出るのでは？
- ・日本の遺産と世界の遺産、どちらに軸足を置くか、難しいところ
- ・20 代の視聴者が非常に少ないということだが、30 年前の 20 代は演歌を聴かなかった。50 代になった今は聴いている。そんなこともヒントではないか。
- ・団塊キーワードは少々供給過多気味。とはいえ、これからどんどんこの世代がリタイアして時間ができる 視聴要望は高くなる。
- ・一方昨今の視聴者は案外受動的でなく、自分が歌いたい、出たい、というベクトルも強いので、その傾向を番組に活かさないか。

⑤ 今後の番組審議委員会の開催について

次回の番組審議委員会は、来年 5 月頃に開催することを確認する。

以上